

美術博物館協議会における委員からの主な意見と それに対応する具体的な取り組み・事業について

【子ども・学校教育に対するあり方について】（意見数：24）

[子ども向けの展覧会・企画等]

- 日本で、芦屋市は独自の子ども教育やアートで新しい時代を作っていく仕掛けができればいい
(H24 第1回・齊木副会長)
⇒・「びはくルーム」で年間を通じて開催。これを充実していきたい。
- 夏休み期間中の企画展は子ども向けになっていない (H24 第1回・野村委員)
⇒・平成25年度夏に、子どもも対象にした「学習雑誌にみる子どもの歴史」展を開催。
・平成28年度夏、「チェコのアニメ」展を開催予定。
- 夏休みに子どもたちに資料整理の手伝いをしてもらいたい (H25 第2回・叢会長)
- 夏休みに、美術博物館のコレクションを子どもたちに見せていくといい (H25 第2回・叢会長)
- 被災した歴史的建造物の解体部材等、倉庫に眠っている文化財を子どもたちに教えてあげるだけでも教育になると思う (H25 第2回・井上委員)
- 歴史に触れるチャンスがいっぱいなければならない (H25 第2回・井上委員)
- 土曜・日曜日には、お父さん、お母さん、お兄さんたちと一緒にみにくるようなカリキュラムを組んでもらいたい (H25 第2回・齊木副会長)
⇒・「びはくルーム」で年間を通じて開催。これを充実していきたい。
- 現在の学芸員が指導して、芦屋市立美術博物館で働きたいという人材がいっぱい増えるようなカリキュラムが必要 (H25 第2回・齊木副会長)
⇒・トライやるウィークで、市内の中学2年生を受け入れている。
- 中学生に興味を抱かせる広報、宣伝が必要 (H26 第1回・野村委員)

[学校教育との連携]

- 学校教育と美術が、体験できる、上手くリンクするカリキュラムを編成してほしい。(H24 第1回・齊木副会長)
- 美術博物館の見学は、学校の年間行事の一環として行わないと難しい (H24 第1回・野村委員)
- 「年に1回は必ず子どもたちと美術博物館に行こう」というようなことを、教育委員会が市内の全幼稚園・小中学校・高校に呼びかけて、大々的に実施できればいい。(H24 第1回・野村委員)
- 教育委員会でやらないと、学校単位では難しいと思う (H24 第1回・齊木副会長)
- 小中学生について、教育委員会がバックアップして、学校から美術博物館に行く仕組みをつくらせていただきたい (H24 第2回・叢会長)
- 小学校で積極的に活用されるプログラムをサポートすべき (H24 第2回・齊木副会長)
- 次年度のプログラムを組み立てる時に学校の先生の意見を聞くべき (H24 第2回・齊木副会長)

●校長会で美術博物館の一年間のスケジュールを説明して、「子どもたちが来る運動をしてください」とお願いすべき（H24 第 2 回・蓑会長）

⇒実施。学校が年間スケジュールを決める時期に合わせて、美術博物館のイベントスケジュールを配布し、PR。

●美術の先生と現場で一度だけでもミーティングを開催するといひ（H24 第 2 回・齊木副会長）

●美術の先生だけでなく、歴史の先生にも呼びかけてほしい（H24 第 2 回・蓑会長）

●教員が美術博物館でレクチャーや学ぶ機会がないといけない（H25 第 1 回・野村委員）

⇒・歴史部門において、平成 27 年度 阪神中学校社会科教育研修会「浮世絵から読み解く江戸時代の社会」を当館講義室にて実施（H.27.11.11）。

●美術博物館の熱意を教育委員会が各学校などを通して、もっとPRしていただく必要がある（H25 第 2 回・仲庭委員）

●学校と美術博物館の連携がもう少し必要（H26 第 1 回・野村委員）

⇒・展示のチラシ等を公聴会で配布し、協力を要請している。

[出前授業等]

●学芸員が学校に出向いてほしい。本物をもって、学校で説明するなど（H24 第 2 回・蓑会長）。

●出前出張をやればいい（H25 第 2 回・蓑会長）

⇒・芦屋国際中等学校に「出前講座」を毎年実施（今年度は実施せず）

・校長会で、学芸員が学校に出向かせていただけるので、活用してほしいことを説明している。

【広報について】（意見数：12）

●広報をしっかりすれば、もっと人も入ってくる。いかにしてお金を使わずに、広報を使っていくか（H24 第 1 回・蓑会長）

⇒・各種「美術雑誌」に掲載。「美術の窓」「ギャラリー」

・小学館・集英社の雑誌に掲載。「和楽」「ドマーニ」「エクラ」「週間ポスト」など

・「サビー」「KANSAI WORKER」などの雑誌。

・浮世絵展の時は、生涯学習課が市の庁内LAN掲示板をつかって、全職員向けにPRし、前売り券の受付を行なった。

●JR・阪急・阪神と話をし、少しでも宣伝をしてもらえないものか（H24 第 1 回・蓑会長）。鉄道会社の協力を得ると良い（H25 第 2 回・蓑会長）

⇒・JR 芦屋駅に交渉し、無料でポスター1枚、チラシの設置ができるようになった。阪神電鉄、阪急電鉄については、今後の課題。

●駅やバス停にポスターやチラシを貼って、何をしているのか、皆に知ってもらわないといけない（H24 第 1 回・蓑会長）

⇒・展覧会ごとに、2週間～4週間、駅にポスターを貼っている（阪神電車中心）。ただし、予算としてはこれが限界。

●メディアへの資料提供について、ただ資料を送るだけではなく、担当者が興味をもつような資料を作る工夫が必要（H24 第 1 回・山口委員）

⇒・担当学芸員より、直接ご説明とお願いをしている。

●NHK教育の日曜美術館で、ギャラリー案内がある。プレスリリースについて、インターネットに書き込めば、自然に届く新たなシステムができた。(H24 第 2 回・蓑会長)

●来館してくれるような、キャッチコピーが大事 (H24 第 2 回・蓑会長)

●メディアから資料を借りたいと言ってきた時、その手続きを簡略化した方がいい (H24 第 2 回・山口委員)

●大阪にも少しチラシを置くようにしてほしい (H25 第 1 回・蓑会長)

⇒・教育委員会、公共施設、画廊などに送付し、配架をお願いしている。

●三面記事に出るような情報をたくさん提供して、存在感をつくるのが大事 (H25 第 2 回・蓑会長)

●広報にコミスクを活用すべき (H26 第 1 回・若林委員)

●広報について、市内の各種団体や組織をもっと利用すべき (H26 第 1 回・若林委員)

⇒・芦屋市内の登録団体に「プレスリリース」と招待状を送付。

●子どもが参加できるイベントがあるので、PTA総会 (5 月) でご案内いただきたい (H26 第 1 回・別所委員)

⇒平成 27 年 5 月の P T A 総会で、チラシを配布し、 P R した。

【美術博物館のあり方について】(意見数：9)

●みんなで芦屋を知ろうというキャンペーンを行なってください (H24 第 2 回・蓑会長)

●普段ちょっとふらっと来るような、みんなの応接間になるような美術博物館になってほしい (H25 第 2 回・蓑会長)

⇒・前庭を開放している。

●美術博物館は単なる作品展示の空間ではなく、全体の関係性を考えないといけない (H24 第 2 回・齊木副会長)

●展覧会と企画事業がどのように連動したのか、構造的な関係性を考える必要がある (H26 第 1 回・齊木副会長)

●予算をつけて、すごい目印を作ってほしい (H25 第 2 回・蓑会長)

●「芦屋のまち全体が美術博物館」というステージが生まれてほしい。(H26 第 1 回・齊木副会長)

●美術博物館の中だけではなく、まちに出るといった動きに繋がってほしい (H26 第 1 回・齊木副会長)

⇒・ワークショップで、芦屋を歩く企画を多く実施している。

●アートバザールを小学校など美術博物館の外で開催してはどうか (H26 第 1 回・齊木副会長)

●運営基本方針の「芦屋の貴重な文化遺産」について、芦屋らしさをもう少し具体的に示した方がいいのではないか (H26 第 1 回・池浦委員)

【展示の方法等について】（意見数：8）

- コレクション展，常設展というタイトルはやめてほしい（H25 第1回・葦会長）
⇒・展覧会・各種事業のタイトルについては，魅力あるものを考えている。
- 具体美術について，もう少し誰でもわかる内容の展示をしてほしい（H24 第1回・野島委員）
⇒・小学校・中学校向けに，チラシを作り配布。
- 漫画やアニメーション等，子どもたちが好んでくるような展覧会や，学校をあげて「6年生はみんな美術博物館へ行こう」というような時間ができたらいい（H24 第1回・野村委員）
⇒・平成28年度夏に，「チェコのアニメ」展を開催予定。
- 絵画など平面ではなく，立体的なものも入れていけば，もっと若い人も面白がってくると思う（H25 第1回・山口委員）
⇒・「土器どき展」（平成26年度），「前衛陶芸」（平成27年度）の展覧会を実施。その他の展覧会で「立体」を展示。
 - ・「art trip vol.1 風景と表現」展（平成26年度）では，「映像」を中心に展示
- 子どもたちにも良く分かる，学芸員の説明等を考えていただきたい（H26 第1回・若林委員）
- 土器片等を触れる展示をしてもいいと思う（H26 第1回・若林委員）
- 解説文にもっとルビを振ったほうがいい（H26 第1回・若林委員）
- 展覧会で，エントランスホールにワクワク感がない，まったく生かされていない（H26 第1回・若林委員）
⇒・工夫はしているが，まだまだ努力が必要。
 - ・「art trip vol.1 風景と表現」展（平成26年度）では，林勇気（映像作家）の映像による作品」を展示。

【アクセスについて】（意見数：7）

- アクセスについて，矢印等の案内や看板を付けてほしいと市にお願いしている（H24 第1回・広瀬館長）
- 美術博物館への案内板や表示は，早急につけてほしい。路面標示も有効ではないか（H24 第1回・野島委員）
- 交通アクセスの改善が必要（H25 第2回・仲庭委員）
- 遠回りでもいいから，わかりやすいルートを決めて，何かわかりやすい目印をつくと良い（H25 第2回・山口委員）
- 臨港線からの道路の閉鎖を解消したらよい（H25 第2回・井上委員）
- 美術博物館のアクセスについて，改善すべき（H26 第2回・若林委員）
- アクセスについては，ずっと抱えている課題（H26 第1回・齊木副会長）

【周辺の環境等について】（意見数：7）

- 前庭の芝生が色焼けしている。美術館は美の殿堂であるから，美しくないといけない。土手も崩れたままになっている（H24 第1回・山口委員）

- ⇒・庭の養生は、管理人がルーティンワークで時間をかけて実施。
 - ・安全に必要不可欠なものを優先に予算化しているので、美観については後位に置かれているのが現状。
- 環境について、土手が崩れていたり、いろいろな問題がある（H24 第 2 回・山口委員）
- ⇒・2月に竹垣の前面修理を実施予定。
- 庭の芝生を活用して、パラソルを持ってきて、モデルの写生会をすればいい（H24 第 2 回・井上委員）
- 芝生がきれいであればならない（H24 第 2 回・蓑会長）
- 美術博物館のどこかに、東日本大震災で被災した大川小学校からのひまわりの種を植えてはどうか（H25 第 2 回・山口委員）
 - ⇒・平成 26・27 年度実施。伊勢幼稚園の協力。
- ひまわりをきっかけに、美術博物館と小学校のツアーをすればいい（H25 第 2 回・齊木副会長）
 - ⇒・伊勢幼稚園の園児が、その育ち具合を何度か見学。
- 美術博物館の喫茶店は、メニューや内装等をもっと洒落たものにすればいい（H24 第 2 回・仲庭委員）

【目標入館者数について】（意見数：3）

- （同規模の美術館と比べれば）、年間5万人の入館者を目標にしてほしい（H24 第 1 回・蓑会長）。
- 入館者が5万人いくようにしていただきたい（H25 第 2 回・蓑館長）
- ⇒・当コンソーシアムの目標として、指定管理期間中（H26～30 年度）に入館者5万人を目指している。
- 地元の人が美術博物館を自由に自分の庭のように使ってもらえるような仕掛けをしないと5万人は難しいと思う（H24 第 1 回・蓑会長）
- ⇒・庭の利用は増えている。昼食等、ゴミの処理だけお願いして利用していただいている。
 - ・幼稚園、小学校にもご利用いただいている。
 - ・写生会などの利用もあり。
 - ・保育園の散歩の途中でのご利用。

【ミュージアムショップについて】（意見数：2）

- ミュージアムショップの充実を考えてほしい（H25 第 1 回・蓑会長）
- ⇒・今期3月、全面的に模様替えを予定。
- ミュージアムショップの充実など、不便な場所でも行く目的があれば行くので、その工夫が必要（H26 第 1 回・別所委員）
- ⇒・平成 28 年 3 月、全面的に模様替えを予定。

【観覧料について】（意見数：2）

- 企画によっては、無料にしてもいいのではないかと（H26 第1回・齊木副会長）
⇒・展覧会により、「観覧料無料の日」を設定している。
- 週に一度無料の日を作るのもこれからは考えてもいいかもしれない（H26 第1回・蓑会長）
⇒・「びはくルーム」で年間を通じて開催。これを充実していきたい。

【アンケート結果等について】（意見数：2）

- 入館者数と天気の関係を示してほしい（H26 第1回・蓑会長）
 - 市内の何町から来館しているのか、アンケート結果を地図上に落すことは重要（H26 第1回・齊木副会長）
- ⇒アンケートの質問項目には入っているので、集計結果の検討が必要。

【文化ゾーン3館の連携について】（意見数：1）

- 谷崎潤一郎記念館とも、共通券を出したり、連携した展覧会をしたら面白いと思う（H25 第2回・蓑館長）
- ⇒・「阪神沿線の文化110年」展で、連携企画、共通券を実施。
・谷崎潤一郎記念館との連携や、図書館を含めた文化ゾーン3館との連携を強化していく必要があると考え、平成27年度に3館の合同会議を実施。

【チケットの販売方法について】（意見：1）

- チケットをコンビニで販売する工夫（H24 第1回・蓑会長）
- ⇒・保証金等の費用と費用対効果の面で、現在、踏み切れていない。